社会学部報

◇学部講演会および研究会

○1996年10月16日（水）
（社会学部開設35周年記念講演会）
講師　オーギュスタン・ベルク氏
フランス国立社会科学高等研究院
教授・文学博士（国家博士）
「風土とアイデンティティ」

○1996年10月18日（金）（研究会特別例会）
講師　オーギュスタン・ベルク氏
フランス国立社会科学高等研究院
教授・文学博士（国家博士）
「風景の発見—中国とヨーロッパの比較—」

○1996年11月27日（水）（研究会例会）
岡田　弥生　助教授
"Beyond the Predicament of Being
—T. S. Eliot and William Faulkner"

○1996年12月4日（水）（研究会例会）
Ruth M. Grubel　助教授
"Appropriate Assistance : Foreign Offers of Assistance after the Hanshin Earthquake."

○1997年1月17日（金）（研究会例会）
難波　功士　専任講師
「CM／受け手／社会」

◇社会学部教職員人権問題研修会

○1996年11月13日（水）
講師　近藤　善彦氏
大阪生野教会牧師
「人権とわたしたち」

◇海外出張

○ルース・グルーベル　助教授
11月26日から11月29日まで
国際教育学会で発表するため、シンガポールへ

○対馬　路人　教授
12月1日から12月8日まで
文部省科学研究費補助金による在日コリアンと郷里とのネットワーク調査のため、韓国へ

○山路　勝彦　教授
12月8日から1月13日まで
社会人類学的調査ため、トンガ王国へ

○立木　茂雄　教授
1月14日から1月19日まで
第5回日米都市防災会議で発表を行うため、アメリカへ

○真鍋　一史　教授
2月17日から2月23日まで
文部省新プログラム研究「国際社会における日本語について総合的研究」の一環として、ミシガン大学での質問紙調査の実施とデータ解析の技法についての研究のため、アメリカへ

○岡田　弥生　助教授
3月9日から3月15日まで
研究対象であるT. S. Eliotの資料収集及び今後の研究課題の打ち合わせのため、イギリスへ

○谷　直子　専任講師
3月10日から3月29日まで
TESOL第31回学会及びカリフォルニア州立大学で研究発表を行うため、アメリカへ

○山路　勝彦　教授
3月21日から3月28日まで
インドネシアの人類学的研究調査のため、インドネシアへ

○アラン・ブレイディ　助教授
3月28日から4月5日まで
第31回IATEFL学会で研究発表を行うため、イギリスへ

○山路　勝彦　教授
3月30日から4月8日まで
台湾先住民の人類学的調査のため、台湾へ

◇新刊書紹介

○真鍋　一史　教授（単著）
『広告社会学』
中国建材工業出版社　1996. 9
《「広告の社会学」（増補版）日経広告研究所 1994年，の中国語訳》

○対馬　路人　教授（共著）
『阪神大震災と宗教』
東方出版　1996. 10

○対馬　路人　教授（共著）
『聖と俗のはざま』
東方出版　1996. 12

○川久保　美智子　助教授（単著）
『日中社員の意識比較』
多賀出版　1997. 2

学会消息

◇国際パスカル学会

○　国際パスカル学会が、1996年9月19日（木）～21日（土）にフランス、クレルモン・フェランのブレーズ・パスカル大学において、「パスカルと法律」の主題で開催された。本学からは森川甫教授が出席した。

◇日本グループ・ダイナミックス学会

○　日本グループ・ダイナミックス学会が、1996年10月26日（土）、27日（日）に広島大学で開催された。本学からは藤原武弘教授が出席し、「“モノ好き人間”の社会心理学的研究」（本学大学院前期課程　池内裕美との共同研究）、「態度や行動の類似性と親密性の相関分析」（本学大学院前期課程　脇本忍との共同研究）、「日本人学生のソーシャル・サポート・ネットワークと適応：留学生との比較」と題する研究発表を行った。

◇世界世論調査学会（World Association for Public Opinion Research）

○　世界世論調査学会東京会議が1996年11月8日と9日の両日、アルカディア市ケ谷で開催された。本学からは真鍋一史教授が組織委員として会議の運営にたずさわるとともに、「世論調査の実査と解析における革新」のセッションで「国際比較のための質問紙調査の諸項目の分類の技法――Facet Theory の応用――」と題する研究発表を、また「世論・マスメディア・世論調査」のセッションで「日米中関係をめぐる世論とマスメディア」と題する研究の共同発表を行った。

◇中国四国心理学会

○　第52回中国四国心理学会が、1996年11月9日（土）、10日（日）に広島修道大学で開催された。本学からは藤原武弘教授が出席し、「日本人大学生のソーシャル・サポート・ネットワークの構造：サポート認知と満足に及ぼすネットワーク・メンバーの要因分析」、「Cherished Possessions の意味と機能についての研究（6）」、「Cherished Possessions の意味と機能についての研究（7）」と題する研究発表を行った。

◇日本社会学会1996年度全国大会

○　日本社会学会1996年度全国大会が11月23日（土）、24日（日）の両日、琉球大学において開催された。本学からは、荻野昌弘助教授が、テーマ部会「阪神・淡路大震災」において、「正義論としての震災体験―震災後の行政と住民―」と題する報告を行った。

◇第5回日米都市防災会議

○　立木茂雄教授は1997年1月16日より同18日まで開催された第5回日米都市防災会議（於米国パサディナ市ダブルツリー・ホテル）にて、Life modeled social work practitioner's view of relief volunteer management : A phasespecific disaster response と題して研究発表を行った。

執筆者紹介（掲載順）

牧　正英	関西学院大学社会学部教授
倉田和四生	関西学院大学社会学部教授
山本剛郎	関西学院大学社会学部教授
高田真治	関西学院大学社会学部教授
沙連香	中国人民大学社会学系教授
川久保美智子	関西学院大学社会学部助教授
孫　良	関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程
浅野　仁	関西学院大学社会学部教授
野口啓示	関西学院大学大学院社会学研究科博士課程前期課程
坪倉裕子	関西学院大学大学院社会学研究科博士課程前期課程
谷口泰史	大阪府立大学社会福祉学部専任講師
立木茂雄	関西学院大学社会学部教授
森川　甫	関西学院大学社会学部教授
小関藤一郎	関西学院大学名誉教授
真鍋一史	関西学院大学社会学部教授
栗田真樹	吉備国際大学社会学部講師
加藤敬子	関西学院大学社会学部兼任講師
中野秀一郎	関西学院大学名誉教授
張　凡	関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程

社会学部研究会会員

会長　牧　正英

運営委員　森川　甫　荒川義子　津金沢聡廣　宮原浩二郎　西山美瑳子　三浦耕吉郎

会計監査　中山慶一郎　宮田満雄

書記　土屋明生

名誉会員　本出祐之　小関藤一郎　西尾　朗　嶋田津矢子　田中國夫　半田一吉　萬成　博　岡村重夫　杉原　方　J. A. ジョイス　中野秀一郎　領家　穣　清水盛光

（A. B. C 順）

普通会員　倉田和四生　牧　正英　張　光夫　船本弘毅　紺田千登史　真鍋一史　高田眞治　安藤文四郎　石川　明　芝野松次郎　藤戸淑子　居樹伸雄　荻野昌弘　岡田弥生　杉山貞夫　佐々木　薫　中山慶一郎　津金澤聡廣　村川　満　山路勝彦　鳥越皓之　浅野　仁　對馬路人　藤原武弘　立木茂雄　A. ブレイディ　三浦耕吉郎　谷　直子　武田　建　森川　甫　宮田満雄　春名純人　西山美瑳子　山本剛郎　荒川義子　高坂健次　芝田正夫　宮原浩二郎　田中耕一　川久保美智子　R. M. グルーベル　難波功士

関西学院大学社会学部研究会会則

第1章　総　　則

第 1 条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

第 2 条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

第 3 条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町 1—155　関西学院大学社会学部内におく。

第2章　事　　業

第 4 条

本会は第 2 条の目的を達成するために次の事業を行う。

1．研究会などの開催
2．機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3．会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4．本学部の教育・研究に対する協力
5．国内外関係諸学会との協力
6．その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3章　会　　員

第 5 条

本会の会員は次のとおりとする。

1．名誉会員　本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2．普通会員　本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3．賛助会員　本会の趣旨に賛同するもの

第4章　運営組織

第 6 条

第 2 章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1．会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2．運営委員（6 名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3．運営委員長（1 名）と会計（1 名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4．運営委員会は第 4 条に記された事業の企画・運営にあたる。
なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5．会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。

6．書記は社会学部事務長に委嘱する。

第 7 条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第5章　総　　会

第 8 条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたとき、あるいは普通会員の1／2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第 9 条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1．事業計画および収支予算

2．事業報告および収支決算

3．その他運営委員会において必要と認めた事項

第6章　会　　計

第 10 条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 11 条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1．会　費

普通会員年額　31,200円

賛助会員年額　10,000円

2．寄付および補助助成による金品

3．その他の収入

第 12 条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間2,600円とする。

付　　則

第 1 条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第 2 条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2／3以上の同意を得ることを要する。

第 3 条

本会則は1992年4月1日より施行する。

「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行
1996年10月23日改正

1．「社会学部紀要」（以下、本紀要という）は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を、11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2．本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3．本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
①原著
②研究ノート
③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
⑤社会学部最優秀卒業論文賞（安田賞）受賞論文
⑥その他編集委員会が必要と認めた記事
4．本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会員とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会員の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会員と共同研究をおこなった者とする。
上記以外の投稿者に関しては普通会員による推薦と編集委員会の審査を経て2名を限度として掲載することができる。
大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会員による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。
5．原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサーによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。
図表・写真等の費用は50,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
④原稿には和文および英文の表題、さらに欧文の要約をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
⑤原稿に3語のキーワードをつける。
6．本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7．外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8．編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9．本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。
また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、版権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
10．本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷100部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11．発行された紀要は名誉会員、普通会員、大学院学生、大学院研究員および学生に配布する。その年度の非常勤講師にも配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
12．この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

＜編集後記＞

この三月には、倉田和四生教授と西山美瑳子教授が定年退職されますので、二つの号、第76号と77号をお届けします。この第76号は「倉田和四生教授退職記念号」、として発行致します。倉田先生は39年間、社会学部において「都市社会学」を担当され、教育、研究に従事してこられ、とくに、3期6年間、学部長として社会学部の研究、教育振興のために尽くしてこられました。ことに、社会福祉コースに博士課程（後期課程）を創設されたご功績は、強調し過ぎることのできない極めて大きなものであります。社会福祉コース、社会学部にとってだけでなく、このことによって、関西学院大学のすべての学科、コースに博士課程が完成したことになりましたので、大学としてのプレステージュを高めたものであると思います。

この4月から、先生は吉備国際大学に移られますが、ご健康に留意されて、ご活躍くださいますようお祈り致します。

この号に論文、共同研究、研究ノートを寄稿してくださった方々に厚く感謝致します。この号から、英文の要約、日本語、英語のキー・ワードを採用し、『紀要』の整備、充実に努めました。

『紀要』、研究活動のため、いつもお世話して下さっております速水幸一事務主任、湯原由陽里香主事に厚く感謝致します。　（森川　甫）

1997年3月20日　印刷
1997年3月30日　発行

編集発行人　牧　正　英
発行所　関西学院大学社会学部研究会
〒662 西宮市上ヶ原一番町
関西学院大学社会学部内
電話(0798)(54)6202
印刷所　尼崎印刷株式会社
〒661 尼崎市下坂部3丁目9番20号
電話 (06)494—1122㈹

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 76 March 1997

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan